

(9) 新技術（D X・G X等）の活用

取組名	新技術（D X・G X等）を活用した公共交通の利便性・快適性の向上、課題の解決				
主な取組内容	- リアルタイムの運行、混雑情報や走行位置等（動的情報）を提供するシステム構築など、バスの運行情報のオープンデータ化が進むよう、交通事業者と連携した取組を進めます。＜交通事業者・京都市＞継続 - 交通事業者が実施する混雑データ・運行データの整備・配信に係る取組を支援します。＜京都市＞継続 「京都 地下鉄・バス I Cポイントサービス」（京都カード・京都ポイント）の更なる拡充を検討します。＜交通事業者・京都市＞充実 - オープンデータの利用促進やM a a Sの推進による他分野サービスとの融合によりキャッシュレスや混雑緩和、生活ニーズから移動需要の創造等を図ります。＜交通事業者・京都市＞充実 - 運転士不足や、公共交通の維持・確保の困難対策として、令和10年度の社会実装※を目指し、洛西地域における市バスでの自動運転バスの導入を進めます。＜交通事業者・京都市＞充実【再掲】 ※ 令和9年度中の走行環境条件付与 2050年までの二酸化炭素排出量正味ゼロに向け、E V（電気自動車）バスやE Vタクシー等の導入による公共交通の脱化石燃料化（交通G X）を見据えた課題や方策等について検討を進めます。＜交通事業者・京都市＞充実				
スケジュール（年度）	R6	R7	R8	R9	R10
	【バス運行情報のオープンデータ化】				
	システム構築の検討・システム導入				
	【交通事業者へのデータ整備支援】				
	支援の実施				
	【京都 地下鉄・バス I Cポイントサービス】				
	更なる拡充検討				
	【自動運転バス（新技術）の導入】				
	在り方検討・関係者間での協議 → 自動運転バスの実証実験（許認可手続き含む） → 社会実装				
	【公共交通の脱化石燃料化】				
	E V（電気自動車）バスやE Vタクシー等の導入拡大に向けた検討				
現況	目覚ましいスピードで進む技術革新を踏まえ、データのオープン化やM a a Sの実現など、デジタル化や情報活用等を通じて、交通事業者の経営効率化・経営力強化が必要です。				